



認知症になると想いを表に出しづらくなり、代わりに起こす行動が“周囲には理解できないもの”と映ってしまうことが多くあります。

表面的な行動は「徘徊」「帰宅願望」「入浴拒否」「暴力・暴言」などの様々な言葉で表され、“認知症だから起こすもの”と思われがちです。しかし、認知症がある方を取り巻く「問題」とされるものは、ご本人の問題ではなく、ご本人を取り巻く周囲の理解やコミュニケーションが大きく影響していることが多いということを、ご本人の視点を体験することで理解につなげることを目的としたプログラムです。(体験人数66,000人 2020年3月現在)

「認知症を学ぶ」のではなく「認知症を体験する」ことで認知症のある方への理解を深めることを目指しています。

VR認知症体験会は、参加人数分のVR機材と講師を派遣して実施する約90分の研修プログラムです。90分で3つの症状を体験し、体験ごとに参加者同士で「本人の視点に立ったときに何を感じ何を思ったか」を話し合い、認知症がある方を取り巻く環境をどの様に変えることが状況改善につながるのか意見を出し合い、さらに制作協力いただいている認知症当事者の方のインタビューを聞きながら認知症がある方を取り巻く問題の本質に迫る内容です。



グループディスカッション



当事者インタビュー

「銀木犀」から生まれました



VR認知症体験プログラムは、当社が運営するサービス付き高齢者向け住宅「銀木犀」から生まれました。銀木犀は入居者の約9割の方が、軽度認知障害（MCI）を含めた認知症のある方たちです。入居者の方たちと関わる中で、社会の認知症に対する偏見を感じてきました。

自分が認知症を経験したことがないから、認知症のある方に共感をしにくく、「もう何も分からなくなってしまった人」「何だか怖い」といった差別感情につながるのでは。そんな思いから、認知症がある方たちの世界を一人称体験する「VR認知症」が生まれました。

体験者の声

認知症については、全て理解しているつもりでいたが、上から目線だったのかもしれない。“症状”を見て“ご本人”を見ていなかったのかもしれない。

●認知症専門医

認知症の方の気持ちを理解し寄り添いたいと思うとずっと思って来たがなかなかできなくて苦しんでいた。体験を通じてこれから自分がどうしていけばいいのかやっとわかった気がして涙が出た。

●介護職員

認知症に対して「大きな負」のイメージしかなかったが、体験を通じて負のイメージがなくなった。

●大学生

10年前にこの体験ができていたら自分の母親に対する介護が変わっていたかもしれない。今介護をしている家族に見てほしい。

●介護家族

今まで受けてきた講義とは全く違う理解の仕方で驚いた。VR体験の力に大変驚かされた。

●認知症認定看護師

現在父親の介護中だが早速、接し方を変えていきたいと思った。

●会社員